



▼宮内地区社会福祉協議会定例会で開催された少子高齢社会の講演会



## 少子高齢社会の講演会

宮内地区社会福祉協議会が開催

7月28日（土）宮内地区社会教育センター（旧宮内小学校）で、「少子高齢社会」と題した講演会が行われました。宮内地区社会福祉協議会（志免安喜会長）が主催。月に1度開催される同協議会の定例会の一環として行われ、地区住民など52人が参加しました。

講師を務めた潮谷愛一さんは、熊本県ボランティア連絡協議会長で、前県知事の潮谷義子さんの夫。潮谷さんは少子化時代の子育てについて、「近年悪質化しているいじめの原因として、いじめ加害者が幼児期に満足な愛情を注いでもらっていないケースが多いことが挙げられる。添い寝や抱っこをするなどして、子どもにたっぷり愛情をかけてあげましょう」と話しました。

また、高齢社会における高齢者の生き方についても触れ、自身の経験談をユーモアを交えながら話し、「趣味や生きがいを持つことが大切」とアドバイスを送りました。

## 第1分団第4部が優勝

平成24年度上益城郡消防大会

7月28日（土）御船町で、平成24年度上益城郡消防大会が開催されました。

同大会は、県消防協会の上益城郡支部が主催。郡内消防団の消防操法技術の向上と団員の意識啓発を目的として開催されました。

町消防団（竹村浩二団長508人）では、ポンプ車の部に出場した第1分団（寺本順司分団長）第4部（岩下地区）が優勝。8月26日（日）に天草市で開催された県大会にも出場。日ごろの訓練の成果を発揮して、本町出場チームとして見事初優勝しました。



▲ポンプ車の部優勝の第1分団第4部の選手と町関係者



◀飯ごうを使った野外炊飯に挑戦する子どもたち

## キャンプで自然に親しむ

野外キャンプ「あつまれ子どもたち」

8月1日（水）川平キャンプ場で、野外キャンプ「あつまれ子どもたち」が行われました。緑川などの自然に親しむとともに、団体行動の大切さを体験することなどを目的に、甲佐町青少年健全育成町民会議と町教育委員会が主催し、台風の接近により、1泊2日から日帰りに日程が変更され開催。町内の児童32人が参加しました。

子どもたちは各班に分かれ、大竹をキャンバスに見立て絵や文字を彫る「竹アート」や、ナイフを使った竹のはし作り、バーベキューや飯ごうを使った野外炊飯、炭火で焼き上げるバームクーヘン作りなどに挑戦しました。

## 暑さに負けず熱戦を展開

### 第15回子ども会対抗球技大会

8月8日（水）甲佐小学校体育館で、第15回子ども会対抗球技大会が開催されました。

子どもたちの健全育成と子ども会の親ぶくを目的に、甲佐町青少年健全育成町民会議（奥名克美会長）と町教育委員会が主催。ビーチボールバレー、室内ペタンク、シャフルボード、ストラックアウトの4種目と、オープン種目の長縄跳びの計5種目に、49チーム217人が参加して熱戦を展開。真夏の暑さに負けない元気な子どもたちの活躍に、会場には大きな声援と歓声が響きました。



▲パックを投じて点数を競うシャフルボード



▲ろくじ館で開催された食事処『ごはんよ〜』

## 限定メニューも大好評

### ろくじ館で「お食事処『ごはんよ〜』」

8月3日（金）町農業研修センター「ろくじ館」で、「お食事処『ごはんよ〜』」が開催されました。

甲佐町青空市場運営委員会（宮邊幸子委員長）の会員有志で結成された「ごはんよ〜」グループが、本町のPRと活性化を目的として主催し、同委員会が後援。平成23年からイベントとして開催されていましたが、今回から毎月第1金曜日の定期開催となりました。

この日は、本町産の農作物を使った「夏野菜たっぷりカレー」のほか、静岡県の焼津港で水揚げされたマグロを使った20食限定の「ネギトロ丼」も用意。多くの人で盛況でした。

## インターハイに出場し活躍

### 本町出身の高校生3人が健闘



▲7月28日（土）から8月20日（月）まで開催された平成24年度全国高等学校総合体育大会に出場したバスケットボール競技の志免成珠選手

7月28日（土）から8月20日（月）まで、新潟県を主会場に開催された平成24年度全国高等学校総合体育大会に、本町出身の3選手が出場しました。

志免成珠選手（仁田子区・熊本商高2年）は、石川県で行われたバスケットボール競技に出場。「毎日の練習では、体力を付けることと、頭を使ってプレーすることを心掛けてきました。高校生になると、身長が高い選手が増えるため、シュートの打ち方などでも工夫が必要になります。それを練習し、できるようになるのが楽しいです」と語り、大会を終えて「試合には出場できませんでしたが、コートに立つ仲間のサポートに集中しました。全国には強い選手がたくさんいることを実感しました」と感想を述べました。

本町からは、自転車競技に田上大貴選手（下横田区・千原台高3年）、体操競技に大友彰選手（津志田区・学園大付高3年）も出場し、それぞれの競技で健闘しました。



## 産業後継者育成

### 「ふれあい交流会」に 登録しませんか



阿蘇の大自然の中で開催した交流会

#### ■ 独身男女10人が楽しく交流

8月5日(日) 甲佐町産業後継者育成対策協議会(本町新会長)主催で、「ふれあい交流会」を開催しました。

25歳から41歳までの独身男女10人が参加して交流を楽しみました。阿蘇郡西原村でのオカリナ作り体験や、バイキング料理を堪能するなど、ペアの相手を交代しながら順調に親交を深めました。

お互いに緊張しながらも、後半の「白糸の滝」に移動したところには、終始笑顔で、どこから見ても普通のカップルに見えるほど。

参加者は、交流会終了後も自主的に懇親会を開催。当日のカップル成立1組に限らず、今後の交流で更にカップルが増えていくのではと期待されます。

#### 【参加者のコメント】

- ・初めての参加で緊張しましたが、男性は皆、ハートが優しい方ばかりで1日楽しめました。(女性)
- ・少人数だったので、ゆつくり話ができ本当に良かったです。
- ・女性といろんな話をしました。今度誘ってみるつもりです。(男性)

#### ■ 登録のご案内

ふれあい交流会「I&愛(あいあい)」では独身男女の皆さんの登録を募集しています。簡単な登録をするだけで、今後の交流会をご案内します。まずは、お気軽にご相談ください。

#### ▼ 対象者

20歳から49歳の独身男女

※男性は、町内在住者に限ります。

▼ お申し込み・お問い合わせ先

甲佐町産業後継者育成対策協議会事務局(町産業振興課内)

・「ふれあい交流会」専用ダイヤル

☎080-1705-5339

(事務局・藤本)

・「ふれあい交流会」専用メール

✉kosa.hu-kouryukai@docomo.ne.jp

## 国民健康保険・後期高齢者医療保険

### ■ 「あんま・はり・きゅう」治療券をご利用ください

町では、国民健康保険と後期高齢者医療保険の加入者を対象に、あんま・はり・きゅうの診療を受ける際に使用できる「あんま・はり・きゅう」治療券を交付しています。

#### ● 対象者

- ・ 国民健康保険加入者
- ・ 後期高齢者医療保険加入者

#### ● 交付枚数

- ・ 国民健康保険加入者には、1世帯あたり12枚
- ・ 後期高齢者医療保険加入者には、

1世帯あたり5枚

#### ● 対象の施術院

治療券は、町と協定を締結している施術院でのみ使用できます。詳しくは、町住民生活課にお尋ねいただくか、町公式ホームページ(<http://www.town.kosa.kumamoto.jp>)をご覧ください。

#### ● 治療券の有効期限

平成25年3月31日(日)

#### ● 使用に際しての注意事項

1回の治療につき1枚使用でき、1枚で1,000円を補助します。

#### ● 申請について

治療券の交付を希望する人は町住民生活課で申請手続きをお願いします。

#### ▼ 申請に必要なもの

- ・ 国民健康保険被保険者証または後期高齢者医療被保険者証
- ・ 印かん

#### ● お問い合わせ先

町住民生活課

☎096-234-1113

(内線106)

✉kig204@town.kosa.lg.jp

### 「あんま・はり・きゅう」 治療券を交付します



治療券の交付申請は町住民生活課まで

## 史跡「陣ノ内館跡」 発掘調査レポート #26



「館跡」の堀から出土した土器のかけら

### ■「陣ノ内館跡」で出土した道具

写真の「陣ノ内館跡」から出土した土器は何の道具かお分かりですか。正解は火鉢の縁の一部です。

火鉢は、もともと武士や公家が入っていました。江戸時代から明治時代にかけて庶民にも普及しました。しかし、炭を焼いて発熱させるため、一酸化炭素中毒や火災の危険性があることから、第2次大戦後にストーブに取って代わられました。現在でも一部で陶器や木製の火鉢が使われています。

### ■戦国時代に作られた土器

紹介した火鉢の土器のかけらには、縁の下に花を模した文様があり、15〜16世紀の戦国時代に作ら

れました。瓦質（がしつ）土器と呼ばれ、以前紹介した土師器（はじき）の表面にうっすらと炭素を吸着させた作りで、外側は暗灰色ですが、内側は赤く灰色をしています。硬質の須恵器とは異なり、軟質で吸水性が高いため、水を入れるには適しませんが、作り方は須恵器より簡単で安価であったため、各地に普及しました。

この火鉢も全国的に見れば比較的良好に見られますので、珍しいものはありませんが、これが出土した場所や深さは非常に重要です。

### ■何気ない遺物の重要性

この火鉢は、近年の調査で確認した「館跡」の南側の堀の底から出土しました。堀が掘られた時期を決めるためには、底から出土する遺物で判断します。「館跡」の堀の底からは遺物がほとんど出土しませんので、火鉢といえども貴重な遺物です。しかし、後世に掘り起こされ紛れ込んだ可能性もあり、直ちに堀が15〜16世紀に造られたという結論にはなりません。今後、このような遺物を一つ一つ洗い、遺跡が造られた時期を決める作業を行っていきます。

### ■重要になる女性消防隊の役割

昨年の東日本大震災を機に防災意識が高まる中、「自分たちの町は自分たちで守る」という消防団本来の目的や男女共同参画の観点から、女性目線での防災啓発が今後ますます重要となり、女性消防隊の役割は大切なものになっていきます。

下益城郡美里町では、平成9年に女性消防隊が結成されました。現在、20歳から58歳までの隊員29人からなり、平成23年の軽可搬ポンプによる全国女性消防操法大会で、見事2大会連続の準優勝に輝きました。

### ■本町の自主防災組織の活動

## 男女が協力し合うことが防災活動の第一歩



美里町で結成されている女性消防隊のメンバー

本町には女性消防隊はありませんが、町内13か所の地域で自主防災組織が設立されています。

例えば、区長を中心として区議員や組長などの男性が主に情報収集、警戒、消火、避難誘導を行い、女性が救護、給食の役割を担っているところがあります。ここでは、毎年行政区全体の防災に関する研修会を開催し、1人暮らしの高齢者、障がい者、要援護者の確認や危険箇所の把握を行い、避難訓練を行うなど、相互の助け合いとしての活動がされています。

### ■男女共同参画の視点で防災を

住み慣れた地域で安心して暮らせることを目標に、もしものときに生かせる人とのつながりを、どうやって自分の住む地域につくっては各組織の重要な課題です。そのため、男女共同参画の視点を取り入れ、男女が対等な立場で尊重し協力し合うことが防災の第一歩だと考えます。（T・N）

### ▼お問い合わせ先

甲佐町男女共同参画社会推進懇話会（事務局・町住民生活課内）

☎096・234・1113  
（内線102）